

県 広 報

とやま

TOYAMA PREFECTURAL REPORT

特集/地球環境を守るために



木の香りが漂うウッディ・スペース

富山県木材利用普及センター (ウッドリム富山)

レポーター: 県立総合衛生学院 柳田真紀子さん
(表紙の人)
(表紙の人)



▲木工作品に挑戦 (作業室)

▼広々とした多目的ホール



▲タテヤマスギでつくったパネル



かわいい木工作品の数々



今回私が訪れたのは、木に親しんでもらうことを目的とした施設、富山県木材利用普及センター(愛称:ウッドリム富山)です。

建物の外壁にはヒノキが使われ、木の色合いをそのままに美しいデザインが施されています。私はさっそく、ウッドリム所長の善光さんに「多目的ホール」を案内してもらいました。ホール内に入ると、木の香りがほんのり漂ってきます。ホールの内壁には、厚さ一・五センチのエゾマツの挽き板を湾曲させ接着した「湾曲集成材」という特殊な材料が使われているため、

広々とした空間は柔らかい曲線で包まれていきます。また、ヒノキやラワン、クスノキなどの木材が展示されていて、それらの特性を知ることができます。このホールは、研修会や展示会に利用できるのですが、音響の良さを利用して音楽会を開いたこともあるそうです。こんなホールで聴く音楽は、さぞ素敵でしょうね。

「作業室」では、自分の手で木工作品を作ることができます。私は、あらかじめキット(組立部品)が用意されている「ファーマーズバスケット(野菜入

れ)に挑戦しました。善光さんの指導のもと、金槌を片手に小一時間ほどで完成。納得のいく仕上がりに大満足です。ここではオリジナル作品を作ることもできるため、夏休みには親子で訪れる人も多いそうです。

その他、情報サービス室では、木に関する蔵書や木材の見本がそろっていて、木の正しい使い方を学ぶことができます。みなさんもウッドリム富山で木の魅力を再発見してみてください。

所在地	小杉町黒河新4940
開館時間	9時~16時30分 (入館料 無料)
休館日	火曜日・年末年始
作業室利用料	一般 220円 小・中学生 110円 (ただし、材料費は除く)

※交通—小杉駅下車、医科薬科大学行きバス10分
※定期的に木工教室を開催。お問い合わせはウッドリム富山(☎0766-56-1570)まで。

魚たちと楽しく触れ合う

「魚の保母さん」

魚津水族館マリングール 油木京子さん



「ダイバーの仕事をしている主人から、水族館がマリングールをしてくれる人を捜しているというのを聞き、進められるまま挑戦してみました。」と、魚津水族館で魚の餌づけショーを担当するようになった油木京子さん。

油木さんは、魚津水族館が現在の場所にオープンしてからずっと餌づけを行っている初代マリングール。「ダイビングの経験が全く無かったので、オープン前はかなり練習を積みました。初めは、魚が襲ってくるみたいでとても怖かったですね。」餌づけショーは一日五回。油木さんが潜る海洋水槽には、ブリやタイ、ヒラメ、エイなどたくさんの種類の魚が所狭しと泳いでいます。「小さな魚は大きな魚に遠慮して、なかなか餌に近づけなかったりするんです。だから、なるべく餌がまんべんなく行き渡るようにしています。」また、魚の種類によって餌の好みが違うのもちろん、同じ魚でも性格が異なるとのこと。「タイ

は特に気性が荒いですね。また、同じブリでも一匹一匹表情も性格も違うんです。積極的に餌を求めてくるものもいれば、くれるのを前で待っているものもいる。人間と同じで面白いですよ。」魚の性格まで見分けるベテランの油木さんですが、餌づけには何かとハプニングが付きもの。「ブリが酸素ボンベから出ているホースに引っ掛かり、口からホースが取れてしまったこともあったんですよ。さすがにパニックに陥りましたね。それから水中メガネにぶつかってやることもよくあります。」

そんな油木さんも、家に帰れば二児の母。「子どもは小さい頃、『うちのお母さんは水族館で魚と泳いでいるんだよ』と友達に自慢していたようですね。」と、やさしい母親の顔をのぞかせます。一方、「現在マリングールは三人いるんですが、各々餌づけの仕方がバラバラになって、魚が戸惑わないように気をつけています。」と仕事に厳しい一面も。これからは、魚の保母さん「マリングール」と魚たちとの楽しい触れ合いは、見る者の心を和ませ続けてくれることでしょう。



8 CONTENTS

8月号もくじ

とやま遊学感 / 富山県木材利用普及センター (ウッドリム富山)	1
ひとアズとやま / 油木京子さん (魚津水族館マリングール)	2
クローズアップ / ①ハローネットとやま運用開始 ②富山県マルチメディア情報センターオープン ③立山博物館野外施設 まんだら遊苑オープン	4
特集 / 地球環境を守るために	8
PINUP TOYAMA / 写真 / 松田 勉 (富山県写真家協会会員) 詩 / 山本哲也 (富山現代詩人会会員)	10
ふるさとみである記 (黒部市)	10
①笑福クリニック	12
②黒部文化倶楽部	12
③黒部漁協婦人部	12
エッセイ / 遠藤和子 (日本ペンクラブ会員)	13
富山県における主要プロジェクト / 飛越山地大規模林業園開発林道事業	14
県からのお知らせ / 暮らしのアドバイス	16
とやまの祭事記 / お招来魂 (上市町)	表3

まんだら 立山曼荼羅の世界を肌で感じる

立山博物館野外施設「まんだら遊苑」開苑式

針の山を形とった地界



立山博物館の野外施設の中核となる「まんだら遊苑」の開苑式が七月七日、中沖知事をはじめ関係者約二百人の出席のもと行われました。

式では中沖知事が、「万葉集にも詠まれている立山信仰の世界を体験し学んでほしい」とあいさつ。テープカットに引き続き、遙望館で、来年の国民文化祭ブレイクとして、薪能などの記念行事が開催されました。そして、ラッキーマンが五つ並ぶ午後七時七分ちょうどに中沖知事が同苑の開苑を力強く宣言しました。

「まんだら遊苑」では、立山曼荼羅の精神世界を光・音・香・造形物など現代アートの演出によって見る人の五感に訴えることで、疑似体験できるようにしています。この施設は、閻魔堂・餓鬼道などのイメージを表現した「地界」、弥陀ヶ原の花畑をイメージした「陽の道」、立山の浄土を見たてた理想郷「天界」、そして、光の閉ざされた冒険的な遊びのトンネル「闇の道」の四つのエリアからなります。

展示館などで構成する「教界」、遙望館などの「聖界」とならぶ博物館の三つの大きなエリアの一つ「遊界」の開苑により、立山の自然と立山信仰の世界を体験的な遊びを通じて学べるようになりました。



行政情報をいながらにキャッチ

ハローネットとやま運用開始



行政情報提供サービス「ハローネット」とやまが、六月十三日から運用を開始しました。

ハローネットとやまは、衛星通信を利用したパソコン通信システムで、パソコン等と通信ソフトを用意すれば、家庭からでも電話回線を利用することで様々な行政情報等を得ることができます。提供情報は、県や市町村からのお知らせや保健・医療・福祉情報、消費生活情報、イベント・観光案内など多岐にわたっています。

運用開始に先立ち、北日本新聞社ホー



ルで行われた運用開始式では、福岡隆昇企画部長が「身近な行政情報を幅広く提供できるように、ネットワークの和を広げたい」とあいさつ。テープカットにより運用開始を祝った後、プロジェクトはいくつかのメニューを映し出して、システム概要が説明されました。

ハローネットとやまの運営時間は、原則二十四時間。また、県内どこからでも市内通話料金で利用することができます。このシステムは、情報化時代を迎えた今日、社会生活の充実に大きく貢献するものと期待されます。

高度映像情報 化時代の拠点誕生

富山県マルチメディア情報センターオープン



富山県マルチメディア情報センター開所

富山県マルチメディア情報センターの開所式が七月三日、県総合情報センター五階にある同センターで、中沖知事をはじめ関係者約百五十人が参加して行われました。

この施設は、マルチメディアによる地域情報の発信や関連産業の集積、社会サービスの質的向上などを目的に、昨年十月から整備が進められてきたもので、最新鋭の機器を備えたマルチメディアシアターやソフト制作室、ビデオ編集室などからなります。

式では中沖知事が、「マルチメディアに関する人材育成、映像情報を活用した地域の情報化の拠点として活用していきたい」とあいさつ。関係者らの祝辞、テープカットに引き続き、中沖知事によりハイビジョンプロジェクトのスイッチが押されました。

マルチメディアは、文字、図形、音声、映像等のデータをデジタル化し、統一的に扱うもので、この施設の完成は、二十一世紀に向けて私たちの生活に大きな変化を与えるとともに、新たな産業、文化の創造

マルチメディアソフト制作のためのビデオ編集室



県政の動き

平成7年6月11日～7月10日

- 6月12日 富山県中小企業融合化推進協議会総会
- 6月13日 ハローネットとやま運用開始式
- 6月16日 県議会本会議
- 6月17日 育林ヘルパー出発式
- 6月21日 男女雇用機会均等セミナー
- 6月25日 国際麻薬乱用撲滅デー ヤング街頭キャンペーン
- 7月3日 富山県マルチメディア情報センター開所記念式典
「夏の青少年を守る運動」街頭一斉啓発
- 7月4日 献血推進PRキャラバン（～5日）
- 7月5日 栃津川放水路完工式
- 7月6日 参議院議員通常選挙公示
平成7年度第一回「とやま名誉大使」称号授与式
- 7月7日 立山博物館野外施設「まんだら遊苑」開苑式
- 7月8日 働く女性のつと
- 7月9日 「ふりかえれば100年 日本とブラジル」写真展

▼ハローネットとやまのメニュー画面



地球環境を守るために



21世紀の足音が聞こえ始めた今、地球環境問題は、人口問題、食糧問題と並んで、人類の共通の課題になっています。都市化の進展や生活様式の変化、大量生産・大量消費・大量廃棄型社会の進展などによって、水質汚濁、大気汚染など、都市生活型の環境問題が拡大している今日、これらの問題への一層の取り組みが求められています。さらに、人間の営みそのものが自然の生態系に影響を与え、地球温暖化やオゾン層破壊のような地球規模の環境問題を引き起こしています。私たちの日常生活や事業活動が地球の環境と深い関わりを持っていることから、その解決に向け、県民、事業者、行政が、それぞれの立場に応じ、足元からの取り組みを進めていくことが必要です。ここでは、地球環境がおかれている現状と、この問題に対する自治体レベルでの取り組みについて考えます。



②地球温暖化への取り組み

現在の私たちの豊かな日常生活は、多種多様な消費財や自動車、エアコン等の快適性・利便性をもたらす製品、あるいはふんだんに使える電気、ガス、石油類に支えられており、生活レベルが向上すればするほど必要とするエネルギーは増加します。このエネルギーは、日本はもちろん世界的にも石油や石炭などの化石燃料に大きく依存しています。

この化石燃料の消費によって、地球温暖化の原因となる二酸化炭素が発生します。地球温暖化対策はエネルギー対策といっても過言ではありません。エネルギー消費の削減、クリーンなエネルギーの開発・利用等が考えられます。県としては、本県の特性を踏まえた適切な対策を検討し、地球温暖化に対し今後講ずべき施策の方向を定めた「地球温暖化対策地域推進計画」を今年度中に策定する予定です。

オゾン層の保護

(1)オゾン層破壊とは

大気中のオゾンは、その大部分が成層圏（地表から十数〜五十数キロメートル）に分布しています。オゾンには、人体に有害な紫外線を吸収する働きがあり、オゾン層が破壊されると、皮膚ガンや白内障などの健康被害や

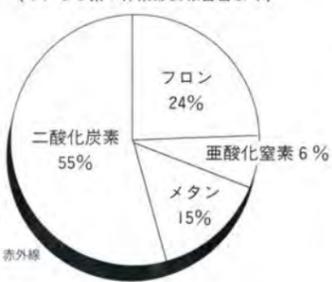
地球温暖化の防止

(1)地球温暖化とは

地球温暖化とは、化石燃料の大量消費によって排出される二酸化炭素や、メタンなどの温室効果ガスの大気中濃度が増加することによって、地球全体の気温が上がることをいいます。特に二酸化炭素は、温暖化に対する寄与度が最も高くなっています（グラフ参照）。

世界の平均気温は、過去百年間に0.3〜0.6℃上昇しており、もし温室効果ガスの濃度が現在の率で増え続けるとすれば、世界の平均気温は二〇二五年までに約1℃、二〇〇年までに約3℃上昇することが予想されています。この気温上昇により、異常気象や海面上昇など、自然や生活環境に悪影響を及ぼすことが懸念されています。

人間活動に伴う温室効果ガスの温暖化への寄与度
(IPCC第1作業部会報告書より)



農業への悪影響も心配されています。このオゾン層を破壊する代表的な物質がフロンです。フロンは、化学的に安定で人体に無害であることから、ヘアスプレーなどのエアゾール製品や冷蔵庫、エアコンの冷媒など身近なもののほか、電子部品の洗浄用など多方面で使われてきました。オゾン層保護に向けては、国際的に協調した取り組みがなされていますが、放出されたフロンの大部分は長期間大気中を漂っていることから、現在の状況ではオゾン層が元の状態に回復するのは早くても二〇四五年頃と予測されています。

(2)オゾン層保護への取り組み

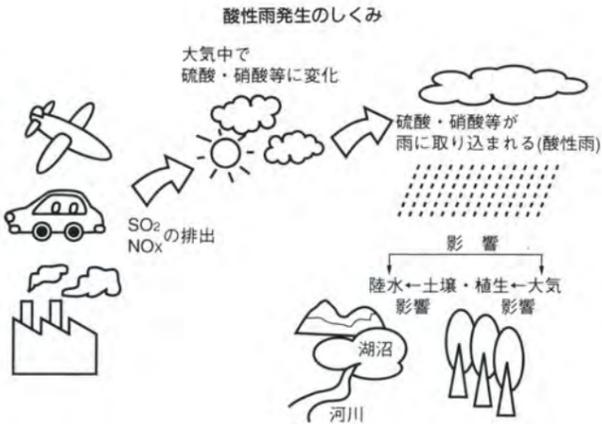
オゾン層を保護するためには、その元凶となるフロンの生産、放出に歯止めをかけることが最も重要です。このため県では今年度、廃冷蔵庫やカーエアコン等からのフロン回収対策について検討するほか、フロン回収事業を行う市町村や一部事務組合に対し補助を行っています。

これまで県内で粗大ごみとして出された廃冷蔵庫の大半は市町村の施設で解体処理され、その際フロンは大気中に放出されてきました。この補助金制度は、今後廃棄される冷蔵庫等からフロンを回収する装置や保管用のボンベを購入する費用の一部を補助するものです。

また、回収されたフロンの破壊対策として、通産省の外郭団体「クリーン・ジャパン・センター」が昨年十二月に千葉市川市に設置した「特定フロン破壊処理実証プラント」で破壊処理が開始されています。そのほか県では、中小企業者がフロンの回収や脱フロン化を図るための施設整備に必要な資金についても、今年度から新たに融資対象としています。



フロン回収装置



酸性雨調査のための自動採取装置(県環境科学センター)

(2) 酸性雨への取り組み

県では、酸性雨の実態を把握するため、昭和六十一年度から、調査を実施しています。

その結果、県内の雨のpHは四・六から四・九と、酸性化傾向がみられたものの、森林等への影響は今のところみられていません。

環境庁では昨年度から、立山町芦峯寺地内に酸性雨観測局を設置し、調査を実施しているほか、県環境科学センター等では、現在、酸性雨の生成機構や土壌・植生への影響について研究を行っています。

酸性雨対策

(1) 酸性雨とは

酸性雨とは、工場や自動車から排出された硫黄酸化物や窒素酸化物などの大気汚染物質を取り込んで、酸性(通常pHが五・六以下)を示すようになった雨のことをいいます。

酸性雨によって、森林の衰退や湖沼の水生生物の減少など、生態系に影響が生じる恐れがあります。酸性雨の被害は、ヨーロッパや北アメリカなどで深刻化しています。わが国では、欧米とほぼ同じ酸性度の雨が降っていることが昭和五十八年から行われている酸性雨対策調査で明らかになりましたが、今のところ欧米のような被害が現れていません。これは、大気汚染状況や気候、土壌、樹木の種類などに違いがあるためとみられています。今後も降り続けば、将来的に影響が出ることも懸念されます。

地球環境と国際協力

(1) 国際協力の必要性

地球環境問題は、一国のみでは解決できない人類共通の課題であることから、国際的な協調のもと各国が協力して取り組んでいくことが必要です。また、昨年十二月に、

国の基本的な環境保全施策の大綱である「環境基本計画」が策定されましたが、その中にも「国際的取組の推進」が盛り込まれています。わが国としては、公害問題を克服してきたこれまでの経験や優れた技術を役立てるとともに、地球環境問題を国際貢献の重要な分野の一つとしており、今後、ODA等を通じ国際協力を進めることにしています。

(2) 国際協力への取り組み

環境分野での国際協力においては、国のみならず公害防止のための技術や人材を持つ地方公共団体や活が一般化したのはここ三十年くらいのこと。もう一度、自分の生活や地域に目を向け、「地球にやさしい社会」をつくるために何ができるかを考えてみましょう。

地球にやさしい環境づくりを



元富山県立大学短期大学部長
富山県環境審議会委員
高倉盛安

地球環境問題は、今や国際的なテーマです。特に地球温暖化の原因となる温室効果ガス(二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素、フロン等)は、このままの状態が続けば、二〇二五年には産業革命以前(一七五〇ー一八〇〇)の二倍(二酸化炭素換算)になると予想され、環境への様々な悪影響が心配されます。

● エネルギーの有効利用

エネルギーの有効利用は、当然二酸化炭素の排出抑制につながります。

本県においては、下水汚泥を焼却処分する際に出る熱エネルギーを利用した消融雪や発電、河川水を利用した冷暖房などが考えられます。特に後者については、現在、富山駅北地区で建設が進められているいくつかの施設で、いたち川の水を使った冷暖房システムが採用されます。このシステム導入の背景には、県内河川の水量が豊富で流れが速いため季節による水温差が小さいことや、水質が清浄なことなどが、広く流れ、広範囲で同様の河川利用を行うことが

企業の役割が期待されています。



本県では一昨年、東アジアを中心とする十二か国と世界銀行など三つの国際機関の代表者、国内の研究者等が参加して「とやま国際環境会議」が開催されました。この会議では、地球環境の保全に向けた地方自治体の国際協力のあり方についてシ

ンボジウムが開かれたほか、専門家が集まって東アジアにおける酸性雨の環境への影響や対策について意見交換が行われ、酸性雨のモニタリングネットワークづくりに向け、各国共通のガイドラインを策定することなどが確認されました。

今年の秋には本県で、日本海沿岸諸国や国連機関、関係省庁、沿岸地方公共団体などの専門家が参加し、「日本海の海洋環境モニタリングに関するワークショップ」が行われます。この会議では、日本海沿岸の海洋環境の現状や今後の環境監視などについて検討されることになっています。

さらに今後は、本県が友好協定等を結んでいる環日本海諸国の省や地方との間で、環境保全に関する情報の交換や環境保全対策の実施状況の調査を進めることにしています。

今年度は韓国江原道とロシア沿海地方へ調査員を派遣するほか、中国遼寧省からの調査員の受け入れを行い、本県がこれまで環境保全に関して蓄積してきた人材、技術等を活かした環境協力を推進していきます。



Toyama International Conference on the Global Environment
とやま国際環境会議
主催：環境庁、富山県、富山市 共催：国際環境協力センター、財団法人とやま環境財団

● 二酸化炭素等の削減対策

本県は自然植生度本州一を誇りますが、二酸化炭素を削減するには、より一層の緑化推進が望まれます。その他、クロレラなどを使った人工光合成や、発生した二酸化炭素を石灰に吸収させ固定化する技術の研究が行われていますが、今後ともより一層の研究の充実が必要です。

また、自動車の渋滞などによるガソリンの不経済な消費は、結果として温暖化の原因となる二酸化炭素等の大量排出につながります。温暖化を緩和するためにも、引き続き渋滞緩和策を進めることが重要でしょう。

● 地域での取り組みと環境教育

他にも、代替エネルギーの開発や低公害車の導入、フロンに代わる新材料の開発など、地球環境を守る様々な研究等が進められています。いま最も求められているのは地域単位での取り組みです。各市町村では現在、空き缶、空きビン等一般廃棄物の分別収集、減量化、再資源化を積極的に進めており、徐々に効果が現れています。これからは、産業廃棄物、特にプラスチック類の再資源化が課題となるでしょう。

また、県民各層に環境を守ることの大切さを啓発していくとともに、子どもの頃から環境というものをいろいろな角度から考えることができるよう、地域や学校等における環境教育を充実していくことが必要です。

地球環境問題というと、個人生活とは無関係なものとしてとらえられがちですが、それは大きな間違いです。個々人の生活の積み重なりが、そのまま地球環境に影響を及ぼしていることを認識しなければなりません。そして、常に一人ひとりが環境の保全に「参加」しているという自覚を持つことが大切なことです。

近年、都市部などでの自動車の増加に伴い、排気ガスに含まれる窒素酸化物や黒煙などによる大気汚染が問題になっていきます。また、日本における二酸化炭素の総排出量の二割が、自動車などの交通・輸送機関から発生しているとみられ、これが地球温暖化の主な原因の一つとなっています。

県では、低公害車に対する意識の高揚を図るため、このたび電気自動車を導入し、六月に試乗会を行いました。この自動車は、燃料タンクの代わりに鉛蓄電池、エンジンの代わりにモーターを搭載した軽自動車で、一度の充電で一三〇キロメートル(毎時四〇キロメートル定速走行時)走ることが出来ます。

この電気自動車は、環境調査などの一般業務に利用されるほか、「夏休み子供科学研究室」や環境関連のバス教室において試乗などを行い、一般への普及に努めていきます。



ここで触れた以外にも、砂漠化や森林の減少など、地球規模での環境問題が深刻化していますが、これらはすべて私たちの社会経済活動と結びついているといっても過言ではありません。私たちの子孫が環境の恵みを受け続けることができるか否かは、私たち一人ひとりの環境に対する考え方や行動にかかっています。

例えば、家庭から出るごみの量は年々増加していますが、ごみの処理は地球環境への負荷を大きくしているとともに、地球資源の浪費を意味しているのです。使い捨てを基調とした大量消費、大量廃棄の生

夕暮れの閃光を浴びて
強烈なリズムのなか

港は
眠気を誘うように
会話しはじめた

造型された海の熱情が
鋭角に収斂していく

海鳥よ
満ち足りた夢が
見られそうだ

生の源泉を求めて



Pin
UP
TOWN
ピンナップとやま

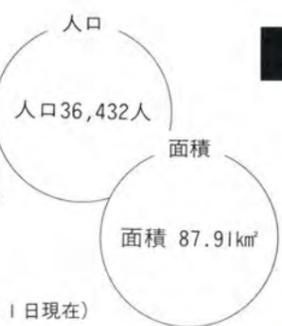
撮影／松田 勉 詩／山本哲也
写真プレゼントについては16ページ参照

伏木港の夕暮れ

黒部市

黒部市の概要

北アルプスを源流に持つ黒部川は、なだらかな扇状地を形づくりながら、日本海に注ぐ。環境庁の名水百選にも選ばれた良質の水は、農業とともに世界一のファスナー工場を育てた。黒部市では、この豊富で美しい水をテーマに、新しいイベントやアメニティーづくりに取り組んでいる。また、宮野山公園や日本海側最大のプラネタリウムを持つ吉田科学館、国内唯一の旋回橋など見所は多い。



(平成7年6月1日現在)

活動を開始した文化の仕掛け人たち

黒部文化倶楽部



▲石川幹夫さん

「地域文化の振興につながる企画なら、財団としても積極的にバックアップしていきたいですね」文化センターと黒部文化倶楽部の二人三脚は私たちに夢のある楽しい体験をさせてくれることだろう。



▲黒部市国際文化センター完成模型

今年十一月、ついにベールを脱ぐ黒部市国際文化センター(仮称)。それに合わせ、興味深いグループが誕生しようとしている。黒部文化倶楽部がそれである。

「地域の人々が何かの形で参加できるような施設を目指そうと考え、一月から三月にかけて『なるほど・ザ・文化センター』という講座を開いたのが、このグループ誕生のきっかけです」と黒部市国際文化センター事務局の石川幹夫さん。この講座、今ジャズがおもしろいなどと題した趣味的講座から、設計者自ら文化センターの秘密を語るといふユニークなものまで七回開かれ、いずれも好評。この講座参加者のうち積極的に文化センターに関わりたい人々二十名ほどで、黒部文化倶楽部の母体が出来上がった。「正式な発足はまだですが、メンバーたちはなかなかやる気を見せていますよ」と石川さん。手始めに、文化センターに入るスタインウェイという企画を練っているそうだ。



▶活動内容等を紹介した機関紙「黒部文化倶楽部通信」



▲一般にも開放されている音楽講座室



▲笑福クリニック

心の安らぎが治療の第一歩



▲山下盛重さん

「少しでも笑顔の多い人生を」をテーマに、急速な高齢化に対応した民間の街づくり計画「ウイングワールド構想」の一つとして、今年六月にオープンしたのが「笑福クリニック」である。

「患者さんの心をリラックスさせてあげることが治療の第一歩というのが、当クリニックの考え方なんです」と語るのは、笑福クリニック事務局長の山下盛重さん。例えば、施設内にある音楽講座室。ここでは、ピアノの生演奏が楽しめるほか、笑うことでストレスを解消してもらうため寄席などを開く予定もあるという。また、館内の壁は柔らかい色調で統一され、全館を通じやさしい音楽が流れている。「地域に密着した施設を目指し、待合室や音楽講座室は、時間帯によっては一般の方々に開放しています」と山下さん。

笑福クリニックのほか、同敷地内には既にケアハウス、人類ロングライフ研究所がオープンしている。今後は、福祉専門学校、介護がシステム化された長寿ハウスなどの健康・福祉施設が次々整備されていくそうだ。「このような高齢者の総合的な施設は、全国でも初めてと聞いています」と山下さんは胸を張る。各施設の充実に伴い、これからますます注目を集めていくに違いない。

新たな特産品を夢見て



▲高野米子さん

黒部漁協婦人部は、これまで魚の加工品の開発や魚食の普及、環境美化などに取り組んできた。こが手がけている代表的な加工品に、イワシの糠漬がある。

「塩漬にしたイワシをさらに糠に漬けてみたくて。塩加減ひとつで、味が落ちたり保存がきかなくなったりするんですよ。試行錯誤の連続でした」と、漁協婦人部長の高野米子さん。この商品ができたことで、穫れ



▲昨年完成した加工場



いわしの糠漬▶

黒部漁協婦人部

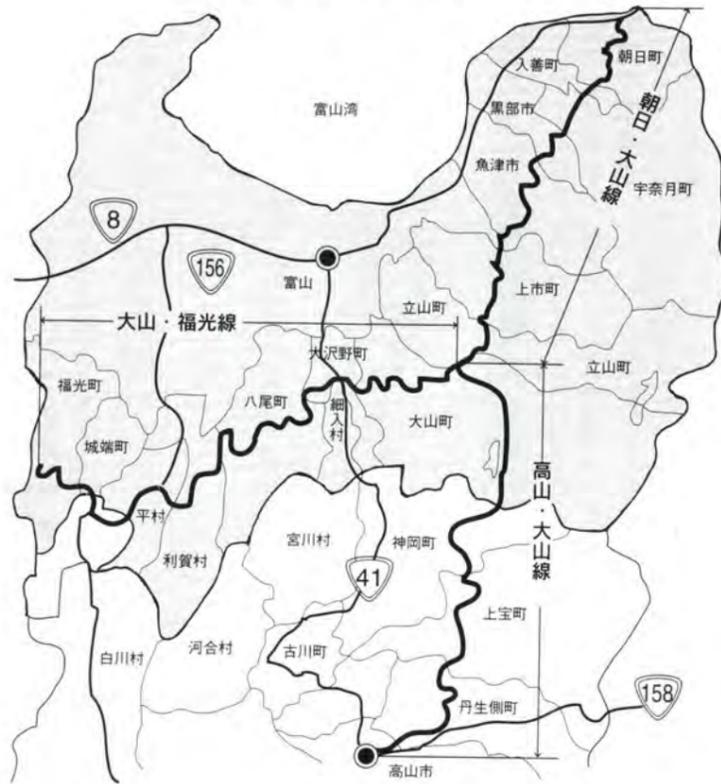
すぎのときは捨てていたイワシが半年間保存可能となり、魚食の普及にも一役買った。また、捨てるのが少なくなったため、海の環境美化にもつながったという。「柔らかくて美味しいと好評です。この商品に取り組み始めて約十年になりますが、近年になってようやく味と保存期間を両立できる塩加減、漬け方が分かってきたんですよ」と高野さんは満足を語った。最近では、イカやアジ、フグなどの加工品も手がけているという。

一昨年、黒部漁港内には待望の加工場が完成。漁協専用の加工場を持つのは珍しいそうだ。これで、天候や手作業に頼っていた乾燥や袋詰めなどが機械で行えるようになった。黒部漁協婦人部の生み出す商品が、これから富山を代表する特産品となることを期待したい。

▶黒部漁協婦人部の方々

富山県の 主要プロジェクト

大規模林道路線概況



山村に活力をもたらし 林道づくり

飛越山地大規模林業圏開発林道事業

大規模林業圏 開発林道事業とは

国土の五割を占める山村地域では、近年ますます過疎化が進み、林業の担い手が激減するなどの問題を抱えています。そこで、林道網の中核となるべき大規模林道を開設することにより、計画的な造林の推進や木材関連産業の基盤整備、森林レクリエーションなど、森林資源の適正な利用と整備保全を行い、山村の振興を図ろうとするのが、大規模林業圏開発林道事業です。

大規模林道の 整備状況

高山―大山線は、有峰区間の東谷地区(6km)については、富山県と岐阜県とを結ぶ新たなルートとして飛越トンネルを含めて完成し、七月十二日に開通しました。引き続き小見―亀谷地区の改良が行われています。

大山―福光線については、平成五年に利賀―平区間(5.7km)が開通。引き続き上平―福光区間の福光町刀利地内から工事が行われています。

朝日―大山線については、平成五年から朝日―魚津区間の朝日町笹川地内から工事に着手しています。

- **飛越山地 大規模林業圏**
林野庁は、全国で七地域の大規模林業圏を指定しています。その中の一つが富山県、岐阜県にまたがる飛越山地大規模林業圏で、この圏域では五路線の大規模林道が整備される予定です。そのうち、富山県内を通過するものは次の三路線です。
- **高山―大山線**
岐阜県高山市を起点として、丹生川村、上宝村、神岡町を経て、大山町の小見を終点とする。
(県内分延長38・6km)
- **大山―福光線**
大山町を起点として、大沢野町、細入村、八尾町、利賀村、平村、上平村、城端町を経て、福光町の刀

今後も全線開通に向け、順次整備を進めていく予定です。この山地交通ネットワークにより、計画的な造林や森林の手入れが可能になるほか、農業、畜産など、山村の生産活動も活発化します。また、緑を求める都市住民には、レクリエーションと憩いの場を提供してくれることでしょう。

Essay
Essay
Essay

富山売薬と前田利幸

日本ペンクラブ会員
遠藤和子



佐々成政の史料集めで全国各地に出かけたとき、「富山」というと、決まって「薬売りさん」と返され、親しみのこもった態度で接してくださった。それほど、富山の薬売りは他県の人びとの心に根づき、親しまれている。

この薬売りには三百年の歴史がある。ひとくちに三百年というが、商いは、そのときどきの人間が相手であり、時代の経済変動によっても消長が激しい。しかも、江戸時代、藩(領国)によっては、領内での自給自足体制を保つため、他国商人に対して「営業停止」を行った。富山商人たちは、それらの壁を突きくずして外貨を稼いだ。

こうした富山商人の活躍を明らかにしたいと思って売薬研究に取り組み、「富山の薬売り」と「富山のセールスマンシップ」の二冊にまとめることができた。研究を通して、数々の埋もれた史実を発掘したが、富山藩五代藩主、前田利幸もこれに当たる。

利幸は延享二年(一七四五)二月、十七歳で藩主となり、宝暦十二年(一七六二)九月、三十四歳で没したが、この間、数々の善政を行った。売薬産業振興策もその一つで、彼の代に「越中富山といえは反魂丹売薬」といわれるまでに、その名を高めた。

すなわち、薬に対する信用確保のために「原料薬種の吟味」に力を入れ、売薬商人たちからは「営業税の取り立て停止」を実施した。さらに、旅先藩にあてた「売薬許可状」



二代藩主、前田正南公が製薬現場を視察したときの再現(金岡邸)

を発行するとともに、「反魂丹商人心得状」を出して旅先での行いを戒めた。

これによって、商人たちの意欲と自覚は高まり、旅先藩での商いはスムーズに運んだ。この結果、売薬商人の数は一挙に増えて千四、五百人にも及び、販路は全国へと広がった。ひとりの商人は、少なくとも連れ人(若い衆)を三、四人位は抱えていたので、売薬従事者は五千人以上はいたことになる。これに業種屋や薬袋製造者が加わり、富山城下町は薬都として賑わった。なにしろ、信濃路のひな歌にまで

「さても見事よ 富山の町は 二階造りの白壁よ」と、うたわれていたという。

このように、利幸は富山売薬育ての親であったにもかかわらず、今日に至るまで、その業績は知られていない。

彼の史料は神通川の河原で、ひそかに焼き払われたのだという。勤王にかかわる事件に加担していたことから、幕府の目を恐れ藩主によって、史料一切が抹消されたら

二〇〇X年 県民が燃えるプログラム
みなさまからの提案を募集中!

豊かさトップレベルといわれる私たちのふるさと富山県。その豊かさを改めて見つめ直し、21世紀になっても、やっぱり住んでいたい、帰りたい、そしてもっと楽しい富山県となるための具体的な提案を県民の皆さまから幅広く募集します。お寄せいただいた提案をもとに、私たちプログラム委員会が、夢あふれる二〇〇X年 県民が燃えるプログラムに組み立てていきます。

〈募集期間等〉
・平成7年8月1日(火)～10月31日(火)
・様式自由、年齢、性別、国籍は問いません。
・豪華な賞品も用意しています。
詳しくは、県および市町村窓口等に備えつけのリーフレットをご覧ください。

〈応募・問合せ〉
〒930-80 (郵便番号だけで届きます。)
二〇〇X年 県民が燃えるプログラム委員会
☎0764-44-9690

「ふるさとのながめ写真コンテスト」作品募集

県では、より多くの県民に美しいふるさとの四季を知っていただくため、昨年度から、「ふるさとのながめ写真コンテスト」を実施しております。
今回は、冬・春の部の作品を募集します。
皆さん、ふるさとのながめを応募下さい。

日焼けちびっ子大会

夏休みの間にいっぱい日焼けしたちびっ子は、太閤山ランドのプールひろばに集合しましょう。一番日焼けしたちびっ子を表彰します。

日時 8月27日(日) 午前10時～
場所 県民公園太閤山ランドプールひろば
問合せ 県民公園太閤山ランド管理センター
☎0766-56-6116

ハニーくん ニハちゃんの大冒険

プレイホールいっぱい広がる迷路で、自分がかごも未来館のキャラクター、ハニーくん、ニハちゃんになったつもりで大冒険しませんか。

日時 7月22日～8月27日 9時～18時
場所 こどもみらい館(小杉町太閤山ランド内)
☎0766-56-9000

遊迷アート 福田繁雄展開催

福田繁雄は、「遊びのデザイン」で知られ、日本を代表する世界的デザイナーです。
今回は、ポスター500点の展示のほか、大小立体作品の館外展示など、様々な手法で生気とスリルあふれる福田ワールドを展開します。

会期 9月3日(日)まで
休館日 月曜日(ただし、8月14日は臨時開館)
観覧料 一般 850円(650円)

みなさんの相談窓口

- 県政について
県民相談室 富山市新総曲輪1-7(県庁内)
☎(0764)31-4111(代)
31-3131(県民相談電話)
- 高岡地方県民相談室 高岡市赤祖父211(総合庁舎内)
☎(0766)21-9411(代)
- 魚津地方県民相談室 魚津市新宿10-7(総合庁舎内)
☎(0765)24-5311(代)
- 砺波地方県民相談室 砺波市幸町1-7(総合庁舎内)
☎(0763)33-5151(代)

- 物価ダイヤル
物価に関する苦情や相談があればお気軽にお電話ください。☎(0120)16-7400(県庁県民生活課内)
- 消費生活については
消費生活センター
富山市安住町7-18 安住町第一生命ビル内
(一般相談は) ☎(0764)32-9233
(金融相談は) ☎(0764)32-3252
- 消費生活センター高岡支所
高岡市本丸町7-1 本丸会館内 ☎(0766)25-2777
- 交通事故については
富山県交通事故相談所東別館1階
☎(0764)31-4111 内4400
- 相談110番
家庭問題・悪質商法・覚せい剤など、どんな相談にも応じます。
☎(0764)42-0110

- シルバー110番
高齢者や家族の心配ごと、悩みごとに富山県高齢者総合相談センター
富山市舟橋南町5-14 社会福祉会館内
☎(0764)41-4110
- よい子の育児電話相談
子育てに関して心配や悩みはありませんか。どんなことでもお気軽にお電話ください。
☎(0764)33-4150(県庁生涯学習室内)

県からのホットニュース

- テレビ広報
■チューリップテレビ 毎週土曜日 AM9:25～9:40
「ふるさとトーク」
- 富山テレビ 毎週日曜日 AM9:00～9:30
「112万人のひろば〜クイズ/フォーカス/イン」
- 北日本放送 毎週日曜日 AM11:00～11:30
「こんにち富山県です」
8/7 いさいさ長寿を楽しむ
8/13 木彫刻で国際交流
8/20 大自然と語ろう
8/27 私たちのふるさとづくり ～八尾町～
- ラジオ広報
■FMとやま「ふれあいホットライン」
県内各地からホットな話題をクリアなサウンドでおとどけます。
毎週月～金曜日 AM9:50～9:55
- 新聞広報
■北日本、富山、読売、北陸中日、朝日、毎日
毎月第2、最終土曜日
「県からのお知らせ」

平成9月街頭献血日程

日曜日	献血場所	時間
16 土	魚津市「サンプラザ」 ショッピングセンター前	10:00～16:00
17 日	富山西武デパート前	10:00～16:30
19 火	城端町役場前	12:30～16:00
21 木	入善町商工会館前	9:30～16:00
23 土	高岡市「サティ」 ショッピングセンター前	10:00～16:00
29 金	小矢部市役所前	9:30～16:00

※都合により変更する場合がありますので、当日の新聞・テレビの街頭献血案内等でご確認ください。
○富山県赤十字血液センターでは、毎土曜日及び第2・第4日曜日にも開所し(祝祭日除く)、献血を受け付けています。(受付時間9:00～16:45)
富山県赤十字血液センター
富山市飯野26-1 TEL(0764)51-5555

県民カレッジ
「創造性開発講座」受講者募集

- ◆テーマ 「明日を拓く創造性を求めて」
- ◆日時 8月21日(月)、22日(火)、24日(木)、25日(金)
いずれも午後6時30分～8時
- ◆会場 インテック明治生命ビル内スカイホール
500名
- ◆講師 8/21 天野正子(お茶の水女子大教授)
8/22 高橋 誠(創造開発研究所長)
8/24 福島 章(上智大学教授)
8/25 吉崎正弘(郵政省通信政策局)
- ◆申込み 県民カレッジおよび文化ホール等に備え付けの申込書に資料代600円を添えて富山県生涯学習カレッジへ
- ◆問合せ 県民カレッジ ☎0764-41-8635(代)

お知らせ

「ブルーガイド・ドライブ飛越」発行

雄大な自然、数々の伝統工芸や伝統的な祭りがある飛越地域(富山県南部地方および岐阜県飛騨地方)。この地域を「日本心のふるさとゾーン」と位置づけ、両県、関係市町村などが中心となり「日本の心のふるさと」を守り育てる飛越協議会を設立。地域振興とイメージアップを図っています。
協議会ではこのたび、ドライブで飛越を楽しんでもらおうと「ブルーガイド・ドライブ飛越」を発行。発行記念として、抽選で30名様にこの本をプレゼントします。ご希望の方は、官製はがきに、住所、氏名、電話番号をご記入のうえ、「ドライブガイド飛越希望」と書いて、県庁計画課へ申し込んで下さい。(8月14日消印有効)
なお、一般書店では、1,700円にて販売中です。

太閤山ランド行事のお知らせ

魚のつかみどり大会
小川の中を泳ぐ魚たちを手づかみします。普段なかなかできない貴重な体験ですので、ぜひお越し下さい。
日時 8月6日(日) 午後3時
場所 県民公園太閤山ランド

食中毒を防ごう

毎年、夏期を中心に食中毒事故が多数発生しています。食中毒にならないよう次の三原則を守りましょう。
(1)清潔(食品に細菌をつけない)
食材やまな板等はよく洗い、台所の整理整頓に心がけましょう。
(2)迅速(細菌が増える時間を与えない)
調理した食品は早く食べ、長く放置しないようにしましょう。
(3)加熱または冷却(細菌を殺すか、増えないようにする)
多くの細菌は65℃以上で死にますので、食品は十分に加熱し、保存する時は、できるだけ5℃以下にしましょう。

8月1日から7日は「水の週間」です。

富山県は、「水の王国」といわれるように、水に大変恵まれています。しかしながら昨年の全国的な渇水のように、水は決して無尽蔵ではありません。
8月1日から7日は「水の週間」です。この機会に水の大切さを考え、豊かな暮らしに役立てるよう心がけましょう。

啓発

請求期限 平成10年3月31日まで
受付窓口 最寄りの市町村援護担当課
問合せ 県庁社会福祉課 ☎0764-44-3199
または市町村援護担当窓口

八月

しょうらいこ
お招来魂

上市町



毎年八月十三日、上市町ではお盆に祖先を迎える「お招来魂」の祭礼が行われる。

祖先の魂を迎える行事は県内各所で見られるが、高さ十数メートルの精霊やぐらを建てるのは、ここ上市町と八尾町の二か所だけ。なかでも上市町の「招来魂」は十数基ものやぐらが立つという規模の大きさを誇る。そして、この精霊やぐらを地元の人々は親しみをこめて「ニオトンボ」と呼ぶ。

祭りが近づく七月下旬、上市川沿い各町内の人々は朝晩の涼しい頃を見計らい、杉の枝、モウソウ竹、稲わらなどを使って「ニオトンボ」を作り出す。

さて、祭礼当日、夕暮れ時になると、人々は上市川の川原に集まり始める。そして、手にしたたいまつに火を付け、「しょうらいこ、しょうらいこ、じも来い、ばばも来い」と口々に叫びながら、たいまつで円を描く。あたり一面に踊る幻想的なたいまつ輪。

夜の帳がおり始めると、立山寺の住職の読経のなか、いよいよ「ニオトンボ」に火が灯される。「ニオトンボ」は、みるみる燃え上がり、天をも焦がす勢いとなる。やがて、迎りの夜空を真っ赤に染めてゆく炎。先祖の魂を家族の元へと誘う心の灯でもある。

魂を呼びよせる

真っ赤な炎



暮らしのQ&A アドバイス



バック旅行の解約料をめぐるとラブル

Q 新聞の折込み広告を見て、国内バック旅行を電話で申し込みました。3日後、キャンセルを申し出たら2割のキャンセル料を請求されましたが、支払わなければならないのでしょうか。電話で申し込んだ次の日、旅行業者から確認書が送られてきましたが、まだ手続きはしていませんでした。

A 運輸省では、旅行者に対し「標準旅行業約款」に準じた契約を行うよう指導しています。

この約款によると、旅行業者が主催する主催旅行では、電話で予約申し込みを行った場合、旅行者は予約申し込みの翌日から起算して3日以内に、業者所定の申込書に所定の事項を記入の上、申込金とともに業者あてに提出して、初めて契約が成立するとなっています。つまり、この期間内に申込書と申込金の提出がなかった場合、旅行業者は最初から予約がなかったものとして取り扱わなければならないわけです。

ですから、電話で予約しただけの場合は、契約成立ではありませんので、解約料の請求に応じる必要はありません。ただし、申込金等を提出した後の解約については、キャンセル料の請求に応じなければならないので注意しましょう。

消費生活センターに寄せられるバック旅行に関する相談には、この事例のような解約料をめぐってのものや、実際の旅行内容がパンフレットに記載されている説明と異なっていたというものなどが目立っています。

トラブルに遭わないためにも、利用する際には約款をよく読み、代金の支払いやそれに含まれるサービスの内容、旅行中の責任の所在などをしっかりと確認するようにしましょう。

相談は、県消費生活センター、電話0764(32)92333、高岡支所、電話0766(25)2777

編集後記

★魚津水族館で、実際に油木さんの餌づけショーを見た。餌を取り出すやいなや、ブリの群れに取り囲まれる。なかなかの迫力だ。油木さんの言うとおり、積極的な魚もいれば消極的なものもいる。もし、おせじにも積極的とは言えない自分がブリだったら、全く餌にありつけず、空腹の毎日を送っていたかもしれない。(K)

★じとじと汗ばみながら、この広報紙が発行される頃にはすっかり夏になっているんだなと思うながら窓の外に目をやると、やっぱりうっとうしい雨。せめて頭の中だけでももうすぐ夏だ！海だ！山だ！と考えるとしよう…カナ。皆さん、もうすぐ夏です！今年はどうお過ごしですか？僕も是非そのお仲間にならな…。(A)

★今回取材で、立山博物館「まんだら遊苑」を訪れた。「地界」「天界」とどちらも印象に残っているのは、あの音響だ。特に、「地界」閻魔堂内の「ウオウ」という鬼の雄叫びとも聴き取れる音が耳から離れない。心にもやましいことがあるから、印象に残っているのだろうか。(心当たりは無いんだけど…)。(Y)

今月号で掲載したPIN UP TOYAMAの写真を抽選で5名の方にワイド六ツ切(25×18センチ)でプレゼントします。希望される方は、官製ハガキで下記の様式でお申し込みください。9月24日消印有効です。

富山県広報課 写真プレゼント 8月号係あて	〒930-0000
氏名	
住所	
電話番号	
本誌を読んだ感想	

今からワクワク 前売券発売中!

「彩りとやま緑化祭'96」のメイン会場となる、高岡古城公園と高岡おとぎの森公園の前売入場券が好評発売中です。

おク① 抽選でソウル航空券ほか豪華プレゼント

おク② 主催6会場のスタンプラリーで、さらにお楽しみプレゼント

おク③ 協賛施設で割引などうれしい特典いろいろ

高岡古城公園会場

世界最大の葉を持つグンネラ（ブラジル原産）、世界最大の花ラフレシア（インドネシア原産）などの珍しい植物が登場。また、熱帯の果樹いっぱいの南国のオアシス「トロピカルガーデン」や立体花壇「和みの園」、300インチ大画面「花のシアター」など見どころがいっぱいです。



高岡おとぎの森公園会場

世界の個性的な庭が見られる「メルヘンガーデン」、花の雲や花気球に彩られたおとぎの世界「アトリウムガーデン」のほか、楽しく水遊びができる「かっぱの広場」、おもしろい遊具がいっぱいの「アミューズパーク」など、大人も子供も楽しめる世界が広がります。

前売入場券は、主な旅行代理店、プレイガイド、JR主要駅、コンビニエンスストアなどでお求め下さい。

区分	ゴールドパスポート (全期間通用入場券)	グリーンチケット (前売普通入場券)	当日入場券
大人	前売 2,500円	前売 1,200円	1,500円
高校生	〃 1,200円	〃 600円	800円
小・中学生	〃 600円	〃 300円	400円

※ゴールドパスポートは前売のみ（メイン会場会期中有効）



第13回全国都市緑化とやまフェア 彩りとやま緑化祭'96

メイン会場 | 高岡古城公園・高岡おとぎの森公園
平成8年7月12日(金) — 9月1日(日) 52日間

開場時間 9:30~17:30

(ただし8月1日木~7日水 および8月14日水~18日日は9:30~19:00)

テーマ会場 | 砺波チューリップ公園……平成8年4月20日(土)~5月6日(月)有料
平成8年8月10日(土)~8月31日(日)無料

富山県中央植物園……平成8年4月26日(金)~6月14日(金)有料

県民公園太閤山ランド……平成8年6月15日(土)~7月11日(木)無料

県民公園頼成の森……平成8年6月21日(金)~6月30日(日)無料

全体会期=平成8年4月20日(土)~9月1日(日)135日間 提唱=建設省 主催=富山県・高岡市・砺波市・財都市緑化基金